

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.11.19 vol.08

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリイマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆
配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

皆様、お元気ですか？

段々と冷え込むようになってきた今日この頃。
今年もあと40日余りとなり参りました。

どうか体調を崩さないように気をつけて、
残りの一日一日を過ごしてくださいね。

さて、私たちは11月12日～13日と
出雲大社に行って参りました。

毎年、旧暦の10月10日には
「神迎祭(かみむかえさい)」と言って、
日本中の八百万の神様たちを
稲佐の浜から出雲にお集まりになるのを
お迎えする祭事が執り行われます。
<http://www.izumo-kankou.gr.jp/1275>

今年は、11月12日の夜がその日にあたり、
稲佐の浜には神事が始まる夜の7時前から
たくさんの方々が待っていらっしゃいました。

私たちも5時半には行っておりました。
私は待っている間、今までご縁を頂いた
日本各地の神社様の神様を思い出しておりました。

たくさんたくさんの神々様とご縁を頂き、
清められ、温かい神様の風に導かれながら

多くの幸せを頂いていることを、
改めて感じ、感謝でいっぱいになって
涙が止まらなくなってしまいました。

そして、お迎えの時。

何気ない日々の中、
どれだけの有り難いご縁を頂いているのか
そう思うだけで、
この場所で神様をお迎えできる幸せを
身体いっぱいに感じました。

神々様をお迎えした後は、
「神迎の道」をみんなで列をなしながら、
稲佐の浜から出雲大社までお送りします。

荘厳な空気に包まれた神楽殿で
「神迎祭」が執り行われると、
ようやく神々様は旅(宿)社である
東西の十九社に鎮まられます。

それから翌朝の9時には、
出雲大社の本殿にて「神在祭」が執り行われ、
本日19日まで、神々様が人々のご縁結びの相談をして、
また私たちに素晴らしいご縁をつないでくださるのです。

このように何千年という悠々の時を超えて、
毎年、毎年、神様と共に生きて来た
私たち日本人はすごいなあ
ああ日本に生まれてなんて幸せなんだろうと
すべてのことへの感謝と感動でいっぱいの出雲でした。

さて、そんな有り難い人生の中、
私たちがご縁をいただいた
今を生きるスターリマンのお一人。

人と経営研究所 所長の久保寛司氏の物語を
本日より3回にわたってお届け致します。
<http://www.e-denen.net/index.php/kangaete>

それでは、第3話となる今回も
最後までどうぞよろしくお願い致します☆

☆第3話 人が輝く生き方を伝える☆
人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏

～第1章 大久保寛司氏との出会い～

2010年5月8日の事でした。
八ヶ岳にある「エミール」というホテルで、
大久保寛司さん、奥様の悦子さん、
4女の恵美子さん、5女の眞理子さんと
お会いしたのが最初の出会いでした。

その出会いのきっかけは、
現在は休刊になりましたが
『fooga』という雑誌の2010年3月春号に、

「愛の使者スターリィマン
～はせがわいさおファミリーが織りなす“家族の絆”」
というタイトルで特集して頂き、
<http://www.compass-point.jp/fooga/92.html>

この本の購読者だった大久保家の皆様が記事を読んで、
私たちに会いたいと思ってくださったことでした。

2010年4月17日。
上甲晃先生をご紹介頂いた沖縄の淵辺美紀さんと、
大久保寛司さんのご長男の貴寛さんが、
偶然にも高知県のとある会でお会いした時の事。

貴寛さんが、はせがわファミリーという家族に
会いたいと思っていることを淵辺さんにお伝えした所、
「あら、知っているわよ、ちょっと待ってね」と言って、
淵辺さんは私にすぐ電話をかけてくださったのです。

「芳見さん?今、高知にいるんですけど、
芳見さんたちにお会いしたいという、
素敵な青年がいるの。ちょっと変わるわね」

そう言って、淵辺さんから変わられた受話器からは、

「私、大久保と申します。
『fooga』で、はせがわファミリーを拝見し、
是非、お会いしたいと思っております」と、
礼儀正しい誠実なお人柄が伺える貴寛さんの声。

それから間もない5月2日に、
貴寛さんは遠い徳島から3女の裕子さんと一緒に、
自宅まで会いに来てくださいました。
ヴァイオリンとピオラをお持ちになって…

貴寛さんと裕子さんは、
とても初対面とは思えないほど、
親しみやすく、穏やかな物腰で、
とても感じの良いご兄妹でした。

すぐに心通い合い、会話も弾んで、
私の手作りランチを美味しそうに召し上がって頂きながら、
大久保家の皆様のことを色々とお話くださいました。

幼き日よりスズキメソードで、
ヴァイオリンを兄妹7人が共に学んだこと。
いつも愛情いっぱいのお母様のこと。
年々若くなっていく優しいお父様のこと…

そして、貴寛さんが大切にしている
一枚の写真を見せて頂きました。
それは、お父様の還暦のお祝いの時に写された
ご家族のお写真でした。

なんて素敵なんでしょう！
写真から溢れ出す温かな家族の輝きに、
私はあこがれを感じ幸せに包まれました。

お二人は『fooga』に掲載されていた、
夫の絵画活動30年記念作品である
「日本の四季の輝き～春・夏・秋・冬～」の
200号の4作品を観てくださって、
とてもとても感動してくださいました。

特に、秋の作品を気に入ってくださったお二人は、
絵の前でヴァイオリンとピオラで
「ふるさと」を演奏してくださいました。
心が洗われるような演奏に、
身体中が癒された私たち三人は、
温かい安らかな気持ちに包まれました。

すると不思議！秋の作品に描かれている
カラスや赤とんぼが動きだしたように見え、
夕焼け色の空が、さらに輝きを増したように感じました。
しかもそれは私だけでなく、全員がそう感じたのです。

「お二人の演奏に絵も喜んでいたのかしら？」
演奏後、お二人にお話すると、

「きっと、いさおさんの作品と
ヴァイオリンが共鳴したのでしょう」
と嬉しそうに教えてくれました。

こうしてお二人と過ごした素敵な一日は、
大久保寛司さんとの出会いへとつながって行ったのです。

その翌日。今度はお父様の
大久保寛司さんからお電話を頂きました。

大久保さんがご家族で「エミール」を訪れた時、
たまたま持参していたfoogaに掲載されている
冬の作品を観たエミールのオーナーさんは、
「この絵はここから観た風景を描いたんですよね？」
とおっしゃったそうです。

大久保さんからお電話で、
「八ヶ岳から観た富士山の風景を描いたんですか？」
と聞かれた夫は、
「いいえ、想像で描きました」と答えました。

そのことをオーナーさんにもお伝え頂くと、
驚いたオーナーさんは、
「是非、はせがわファミリーに、
この窓からの風景を観に来て頂きたい」
と仰ってくださったそうです。

そして、今度はオーナーさんから
「大久保さんご家族が宿泊される8日の夜、
3人をご招待致しますので、是非ともお出でください」
とお電話を頂きました。

偶然か、必然か。
私たちはちょうど8日の日に、
八ヶ岳の知人宅に打ち合わせに
お伺いする予定になっていました。

当日、打ち合わせが終わった後、
急いでホテルにお伺いしました。

大久保寛司さん、奥様の悦子さん、
恵美子ちゃん、眞理子ちゃんと初めてのご挨拶。
言葉では言い表せない気持ちが湧き上がり、
思わず皆さんと抱き合いました。

大久保家の皆様とは、
会いたかった人に再会した時のような
懐かしい感じがして、思わず目頭が熱くなりました。

夕刻、ホテルの窓から映し出される風景を観て、
私たちは本当に驚きました。
確かに、冬の絵と同じで景色が、
目の前に広がっていたのですから…

「明日の朝、この絵のような風景が
もっと見える場所にご案内します」と、
オーナーさんが笑顔で言うて下さいました。

夜には、調度品がさり気なく並ぶ暖炉のダイニングで、
一品一品ずつ、真心こめられたお料理を
大久保家の皆様とご一緒に頂きながら、
色々なお話をさせて頂きました。

そして、お食事後にエミールの皆様へのお礼を兼ねて、
恵美子さん、眞理子さんのバイオリンに合わせて、
祐希がスターリマンの作品の朗読をさせて頂きました。

実はこの夜、大久保さん、悦子さん、
私たち三人で撮った写真に写っている娘が、
両親よりも大久保さんに似ていたため、

大久保さんのことを、娘は“寛司パパ”と、
私達夫婦は、大久保寛司さん・悦子さんを
“お兄様・お姉様”と呼ばせて頂くようになりました。

とてもとても豊かで優雅な一時に、
幸せと感謝でいっぱいでした。

次の日の早朝。大久保家の皆様と私たちは、
オーナーさんにご案内頂き、
あの冬の絵と同じ風景が見える場所へと
連れて行って頂きました。

そこは、「天女山」という所で、
そこから富士山を望んだ風景は、
まさに夫が描いた冬の風景そのもので、
山々の稜線の姿まで、同じ風景で本当に驚きました。

この出会いの日から、
娘は大久保さんの講演会の中で、
スターリィマンの作品を朗読させて頂き、
大久保家の皆様方から日本全国の
素敵な方々とのご縁を数多く頂きました。

また、2011年7月から東北の子ども達に
スターリィマンの紙芝居を贈る活動で
演奏しているストリートオルガンは、
貴寛さんからお借りしているものです。

このように、私たちが公私共に支えてくださっている
大久保家の皆様と2010年5月にお会いしてから、
ちょうど3年半になりました。

もっとたくさんの歳月が経ったように思いますが、
今も出会った時と変わらず、
ずっと温かく応援し、見守って頂いている皆様に
心からの感謝を込めて…

これからも心豊かで笑顔輝く未来を
ご一緒につないでまいりたいと願っています。

☆次回予告☆

第3話 人が輝く生き方を伝える

人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏

第2章は、11月29日(金)配信予定です!

第3話の第1章となる

大久保寛司さんとの出会いは、

いかがでしたでしょうか?

次回は、第2章 大久保寛司さんの
家族の原風景をお送り致します。

配信は、11月29日(金)の予定です。

皆様、どうぞお楽しみに☆

☆第2回「今を生きるスターリィマンたちの集い」☆

～1年後のあなたに贈る幸せの未来予想図～

2014年1月18日開催!ゲストは大久保寛司氏と高野登氏です

11月5日に開催した第1回の講演会に引き続き、
第2回の講演会開催が、来年の1月に決定致しました!

本日から配信を開始した大久保寛司氏と、
次回、第4話にご紹介させて頂く予定の高野登氏をゲストにお迎えし、
輝く新年の幕開けを皆様と共に過ごしたいと考えております。

すでに何名かの方にお申し込みをいただき、
どんなスペシャルな一日になるのか
今からとってもワクワクしています♪
皆様のご参加を心よりお待ちしております!

第2回「今を生きるスターリィマンたちの集い」

～1年後のあなたに贈る幸せの未来予想図～

ゲスト:人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏
人とホスピタリティ研究所 所長 高野 登 氏

日 時:2014年1月18日(土)

第1部:14時～16時15分/第2部:16時30分～18時

会 場:匠ソホラ6階・セミナールーム <http://sohora.jp/>

所在地:東京メトロ「青山一丁目駅」A4出口から徒歩1分

〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-32 田中駒ビル TEL:03-6432-9381 (代表)

<http://sohora.jp/contact/access/>

内 容:鑑賞……「日本の四季の輝き」夏・冬2作品(200号)の展示と

はせがわいさおが語る創作への想い/朗読

講演……テーマ「自分の中にある輝きに出会う瞬間」

対話……テーマ「今の自分を輝かせてくれている存在」

ワーク……テーマ「一年後の自分に贈る未来予想図」

参加費:一般 8,500円 / スターリマン会員 8,000円 / 学生 3,500円

定員:80名

お申し込み:<http://kokucheese.com/event/index/125936/>

☆後記☆

今、はせがわは大宮の武蔵一之宮の氷川神社様に
11月28日にご奉納させて頂くための作品を
懸命に描いております。

詳しいことは、次回のメルマガで
お伝えさせて頂きたいと思っております。

また、祐希の方は、東北での活動を進めながら、
年末から来年にかけての活動の準備に奮闘中。
私も新しい目標に向かって、チャレンジの連続の毎日です。

それでは、皆様、次の配信日まで
素敵な毎日をお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

☆「スターリマンカレンダー2014」ご予約受付中です☆

<http://www.dream-hasegawa.com/about/2014calender.pdf>

発信元:ドリーム工房☆はせがわ はせがわ芳見(よしみ)
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX:048-671-7708 e-mail:yoshimi@dream-hasegawa.com
公式サイト <http://www.dream-hasegawa.com>
ブログ <http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.11.29 vol.09

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリイマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆
配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

週末には11月も終わり、
今年も残り一ヶ月となりました。

皆様、お変わりございませんか？

さて、今年の1月から11月の
過ぎ去っていった月日を
「こんなことがあったね」
「こんな出会いがあったね」と
目を閉じて、思い起こしてみました。

すると、一日一日を精一杯生きて
今の自分がここにあることのすべてに
感謝でいっぱいになりました…

9月からはメールマガジンで
今を生きるスターリイマンの皆様を
ご紹介させて頂くことが出来、本当に嬉しい限りです。

皆様からたくさんの幸せを頂き、
どうもありがとうございます。

本日は、前回からお届けしている
第3話 人が輝く生き方を伝える
人と経営研究所 所長 大久保寛司氏の
第2章「大久保寛司氏の家族の原風景」をお送り致します。

それでは、どうぞ最後まで、
お楽しみくださいませ。

☆第3話 人が輝く生き方を伝える☆

人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏

～第2章 大久保寛司氏の家族の原風景～

私が、大久保寛司さんと出会ってから
出版された著書に「考えてみる」という本があります。
<http://www.e-denen.net/index.php/kangaete>

私は、この本を手にしてから、
毎日この一冊を寝る前に読むようになりました。

そして、読むたびに、
この本に散りばめられている
言葉の持つエネルギーが、
その日の私の心にたくさんの気づきと
深い輝きを与えてくれました。

自らの日々の心を振り返り、
常に己の心に問いながら生きる生き方。
現在の久保寛司さんを創り出した、
その真の原風景をお聞きしたいと願い、
10月17日にインタビューをさせて頂きました。

Q1.久保さんのお父様のことを教えてください。

私の父は誠一と言い、大正11年3月3日に、
7人兄弟の6番目として、博多で生まれました。

学生時代は、ラグビー部で大活躍し、
大酒飲みだったそうです。
また、柔道・剣道の有段者でもあり、
将棋、囲碁も強かったそうで、
でも社会人になったら、
酒もたばこもピタッと止めたそうですよ。

私の父がすごいなぁと思うことは、
どんな時も、ただ黙って見てるだけ、
見守ってくれている人でした。

だから一度も「あーしなさい。こうしないと困るよ」
なんて言われたことがありませんでした。

私が子供の時の話ですが、
ご近所付き合いが盛んだった頃で、
お父さんたちは、代わる代わる地域の小学生や中学生を
色んなところに連れて行ってくれました。

そんな時、あるお父さんに
「中学生は大人運賃だけど小さいから、
小学生運賃でも大丈夫だ」と言われ、
乗車したことを伝えると、

「お前はまさかそんなことはしていないだろうね」
と、叱られました。

また、今では当たり前となった生ごみの分別を、
何十年も前からやっていました。

「生ごみは乾かしてから出す。
そうしないと燃料費がかかるから」と言って、
近所の集めた生ごみも乾燥していました。

人には強制しない。淡々と自らやる。
怒ったことがない。大きい声を出したことがない。手をあげない。
すごく立派な父親でしたね。
歩く道徳の教科書のような人でした。

私が生まれて10か月の時、
父と母は博多から東京に来て、
今住んでいる世田谷には、3歳の時に越して来たのですが、
父はその時に、膨大な借金をして家を建てたそうです。

それは、将来必ず、甥や姪が博多から
東京の大学に出てくるだろうから
その時にみんなが住む場所に困らないように、
拠点となるようにとの考えからでした。
いつも、自分のためにという発想がない父でした。

サラリーマンだった父は、55歳の定年後、
子会社に勤め、64歳までの契約だったのに、
いてくれるだけで良いと言われて、
結局、70歳ぐらいまで働いていました。

それから、「もう私にはやることがない」と言って、急に体調が悪くなりました。

父の具合が悪くなり、治療を受けていたので、介護保険の申請をしようとする、
「国には尽くすものであって、尽くされるものでない。国にしてもらうのは、人として恥で、国にしてもらうようになったら、人としておしまいである」と言って、申請を受けるのを拒みました。

最期、父は大往生でした。
まだ74歳でしたが、医者の診断は老衰。
亡くなった時の父は、仏様のような顔でした。

そんな父親が一番喜んでくれたのは、私が、2000年にIBMを辞めた時に、朝日新聞の“ひと”という欄に載ったことでしたね。

実は半年前に載るはずだった記事が、ボツになってしまって、でも編集長が変わって、急遽、私の記事が採用されたんですよ。
次の日は、長島茂雄さんだったんですが…(笑)

記事の中には、私がIBMを辞めることを家族に伝えた時に、長男の貴寛が、「国を良くするために、お父さんは会社をやめるんでしょ」と言った言葉も載せて頂き、それを観て、父は本当に喜んでくれました。

この時、父は倒れて起き上がれない状態でした。
しかし、病院に行くと、どこも悪くないからと入院させてくれなくて…

そんな中、私の記事が掲載されて新聞がとても嬉しかったみたいで、「新聞は読んだ？ 読んでいないなら、買って読んでみてください」と親戚中の人に電話をかけていました。

父が亡くなったのは、その数日後です。
この新聞記事のおかげで、父は親戚中の人と話をすることが出来ました。

それだけではありません。
私の次男が、「何だかおじいちゃんが危ないかもしれない」と言って連絡してきました。

私の妹の家族、弟の家族と、子供たち、孫たちが、
その夜に全員集まったんです。

父は、子供や孫たち全員と話をし、
美味しい好きなものを食べ、
歌など歌ったことのない父が大きな声で歌って、、
次の日、亡くなりました。

私はその時、思わず亡くなった父を見て
「おやし 見事!」と言いました。
母は隣で「戻って来て!」と
気が狂ったように泣いていましたが。

亡くなって、叔父さんにはこんな風に世話になったという、
甥や姪やたくさんいて、父も兄弟が多かったので、
親戚が集まると、100名以上になる。
色んなところで、みんなを支援して助けていたことがわかりました。

そういえば、私のお祖父さんも努力家で誠実一筋。
決してごまかさない人だった。
大久保家はひたすらまっすぐな家系のようだね。

Q2.大久保さんのお母様のことを教えてください。

母は寿子(ひさこ)と言い、大正14年8月に
父と同じ博多で生まれました。

父と母は大恋愛で結婚。
その時のエピソードですが、父は学生時代に、
母の靴箱にプロポーズの手紙を入れたそうです。
母は承諾の「諾」とだけ手紙に書いて、
父のプロポーズを受けたそうです。

私の母は、父とは対照的な太陽のような弾けた人でした。
とにかく人前に入るのが大好き。選挙運動大好き。
母が選挙カーに応援で乗ると、投票率が上がったそうです。
しかも、立候補もしていないのに、投票用紙に
母の名前が書かれたくらい人望の厚い人でした。

PTAの役員や地区の世話役も大好き。
いや本当に役に立っていたようですよ。

実は先週、世田谷の家の隣の奥さんが来て、
岐阜から時々来てくれる私の娘に、
「あなたのおばあちゃんはね、この地域を良くするために、
何十年も役員として、一人で背負ってやってくれていた人なのよ。」と、
母のことを懐かしそうに話したそうです。

また、根拠のない自信を持っていること。
特に、子供を信じるということに関しては、
本当に素晴らしい人でした。

私には、弟と妹がいて、弟は高校生の時、
あまり行いの良くないグループの中にいたことがありました。
弟にしてみれば、彼らをほおっておけなくて、
自分がないともっと悪くなってしまうから、
と関わっていただけだそうなのですが、
母は頻繁に弟の高校から呼び出されていました。

すると母は、「うちの息子は大丈夫です。
先生に対して、「あなたの信じ方が足りないんです」
と、呼び出される度に言ったそうです。
弟は、「いつも母が自分を信じてくれていたので、
グレないでいられたんだ」と、よく甥や姪に言っていました。

私が落ち込んだ状態だった時も、
「あの子は立派になるから、必ず人を救う人間になります」
と周りの人に方っていたそうです。母親の愛は無条件でした。
根拠もなく大丈夫、大丈夫と言ってくれていました。

「人前で自分が恥をかいて、覚えればいいの。なんでも。」
そんなタイプの母親でした。

私は、人前で話すのが得意な母親と、
くそまじめな父親の両方の血を引いたのかなと、今思いますね。
母親も父と同じように大往生でしたね。

Q3. 夢を持ったのはいつ頃でしたか？その夢はどんな夢でしたか？

私は夢を持ったことはありませんが、
19歳の時に、自分の人生観をそれなりに考えました。

「死ぬ前に振り返った時、後悔しない生き方をする」
これが、私が19歳の時に強く心で思った生き方でした。

そのためには、「身勝手に生きて、好き勝手するよりは、
多くの人に喜ばれる方が、振り返った時に後悔しないだろう」と。
この基本軸で変わらずに、ずっと生きてきたと思います。

サラリーマンの時も、ちょっと普通の人と判断の基軸が違いますから、
このくらいやってもいいだろう、ということも ダメなものはダメ。
「死ぬ間際に、自分の人生を振り返った時に、良しと言えること」
そう言う生き方をして行くことが、基本にありましたから。
そうですね、やっぱりたくさんの人に喜ばれる生き方をしたい。

どんな人間になりたいか？ 何がしたいか？
例えば、社長になりたいとかは思いませんから、
社長になってくださいと言われても、すぐに断りました。
興味がないですから。

そう言えば、小学2～3年の頃、よくお腹が痛くなって、
トイレの中でしゃがみこんでいる時に、
「こんな痛みをとってあげる人間になりたい」と思ったことはありました。
だからと言って「医者になる、そのために猛勉強する」
という方向には進みませんでした。

また、高校生の時に友人のいとこが、
教会によく通っていて、その人と話をしたら、
私のことを70歳ぐらいの牧師さんみたいと言われました。
また、会社に入った時に、「おまえは仏様みたいなやつだな。
そんなんでは、この世では生きていけないぞ」と言われていました。

子供の頃から変わらずに、
ずっと人の痛みをとってあげられる人になりたい。
人を楽にしてあげる人になりたいと思ってきた自分は、
よくよく考えると、流れに身を任せて生きている感じがします。

しかし、流れに身を任せていながらも、
ちゃんと自分自身の“竿”はある。
それは、「世の中に貢献できているかどうか」です。

日本経営品質賞をつくることを手伝って来たのも、
日本の企業を強くすることが、

国力を強くすることにつながると言う信念でやって来ました。
その度、何をやるかは適当なのですが。

でも、自分は何をしたら貢献できるかという軸足を置いてやってきたら、
知識と経験が増えて、広く声をかけていただけるようになり、
今みたいになってしまいました。
こうなろうと思ったことは一度もありません。

Q4.これまでの人生の中で大変だったことは何ですか？

時々は大変だったけど、過ぎ去ってみれば、
別にどうってことないんですね。
終わってしまうと苦労と言う感じが無いんでしょう。
だから、大変というより、面白かったという感じになっちゃいますね。

例えば、海外旅行に行って、パスポートを失くして大騒動になって、
案外それが一番印象に残るでしょう。
いい景色やいい食事なんかよりはるかに良い思い出でなります。
そんなのものです。

IBM時代は、確かに厳しい環境の所におかれていましたが、
やけを起さず、し続けることが出来たのは、家族の存在です。
周りからは、そんな状況でよく辞めないねと言われていましたから。
そのくらい、厳しいことをIBMで経験させていただきました。

そんな無茶苦茶な苦しい状態でも、家に帰って、
妻や子供たちの寝顔を見ると、それだけで癒されていました。
家族がなければ心を持たせることは出来なかったと思います。

私は、家族のために働く、家族を食べさせるために
我慢して働くと言う発想はありません。
そんなこと考えたことありません。
ただやらなきゃと言うことだけ。
使命感とかでなく、ただやる。
義務感もなく、やる。これだけでした。

あまり深く考えていないですね。
そういう意味だいうと軽いかもしれません。
普通は、家族をこれだけ抱えていたら、
路頭に迷わすわけにいかないからという
“力み”があるわけでしょう。何もありません。いつも。

それと、厳しい状況で辞めないでここまでこれたのは、
「人」と「物」と「事」から逃げたことがなかったから。
どんなに嫌な人からも、どんなに嫌な仕事からも

逃げたことはなかったように思います。
私の人生の一番のポイントはこれかも知れません。
「逃げない」

例えば、はたから見るととんでもなく嫌な人や、
足を引っ張る人が、最終的に味方になっちゃうんです。
普通は避けるでしょう。でも、私は逃げなかったですね。
突き抜けたかんじでしょうか。ここらあたりが違うんだと思った。

逃げても同じ課題がやって来ますから、
しょせんその課題を越えるまでは
形を変えて同じレベルの課題が来ると思っています。
(生きることは)精神の修行だから。
そこはやっぱりクリアして行くしかなかったのでしょうね。

IBMを辞めた時は、IBMが嫌だから辞めたわけではありません、
あの会社でやる事が無くなったから辞めただけです。

IBMの組織風土を変えて、
「お客様のことを考えるすごくいい会社になった」
と言われるようになりました。
そういう風土が出来たので、私のやる事が無くなって、
どうするかなと思って辞めました。
とても自然だったと思います。

Q5. 今、大久保さんが、やり甲斐を感じることは何ですか？

今、一番感じるのは、20代、30代前半の人と会っているのが、
すごく多いです。ものすごく勉強になります。
何かを成し遂げた人の話より、面白いです。彼ら彼女らの話の方が。

皆さんからは、「どうしてぼくらみたいな若い人の話を
聞きに来てくれるんですか」と言われますが、
興味があるからだと思います。なにかしら惹かれるんです。

若い人ばかりと付き合っている時間が長いせいか、
8年ぶりに会った人に、会った瞬間、
「前より若い!」と大声で驚かれたこともありました。

—大久保さんは、若い人をたくさん応援していますよね。

趣味ですね。完全に道楽だと思います。
若い人たちが、どんどん広いステージに出て、活躍できるように、
また、出来る手伝いをするのが。趣味ですね、今は。
道を楽しむ、それが“道楽”ということでしょう!

今の20代の人たち、いわゆる“社会起業家”と
言われる人たちがすごいのは、自分の軸で我欲で動いていません。
生き生きしているし、20代ですごい人がいっぱいです。

私は今、そんな若い人たちを応援しています。
応援の中身は、彼らが表現できる場をセッティングしたり、
プレゼンテーションの中身と仕方についてもガイドすることがあります。
彼ら、彼女らの想いをもっとたくさんの人に伝わるようになるための支援です。

—お父様の生き方と似ていますね。

ああ、そうかも知れませんね。形は違いますけど。
内容的には同じかも知れません。
みんな若い人たちが私を慕ってくれています。
それも素敵な若い人たちがばかりです。

何だかしりませんが 私といると落ち着く、ほっと癒されるらしいです。
初対面の方からも、よく相談されたりします。
この年で、私はそんな若い人たちがばかりと、
時間を過ごすことが出来て、えらく恵まれていると思いますよ。

Q6.最後に、大久保さんにとってのスターリマンを教えてください。

厳しい時、支えてもらったのは、妻と子供たちでした。
どんなことにも折れないで、生き続けることが出来た。
私のスターリマンは家族です。

☆次回予告☆

第3話 人が輝く生き方を伝える

人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏
第3章は、12月9日(月)配信予定です!

第3話の第2章となる

大久保寛司さんの家族の原風景は、
いかがだったでしょうか?

25日の月曜日に、奥様の悦子さんより
以下のようなメールを頂きました。

「貴寛さん、洋子ちゃんは、
6月に赤ちゃん誕生です。
わたくしには6人目の孫です。
うれしくてわくわくしています。」

大久保さんが、
「私にとってのスターリイマンは妻と子供たちですね」
と仰ってくださった素敵なお家族に、
また、幸せのエンジェルが舞い降りて来る
2014年の6月が、私もとっても楽しみです。

さて次回は、いよいよ最終章となる

第3章 大久保寛司氏のスターリイマンに宛てた
感謝の風船レターをお送り致します。

配信は、12月9日(月)の予定です。
皆様、どうぞお楽しみに☆

☆後記☆

最後に、大久保寛司さん著書の「考えてみる」から
今日の私の心に響いた、言葉をご紹介します。

第2章 己に問う

『たった一人の理解者になる』

とても悲しいことの一つ
それは 自分を理解してもらえないこと

こんなにがんばったのに
こんなに努力したのに
こんなに苦労したのに
こんなに…

こんなに

どんなに周りの人が理解してくれなくても
たった一人でも
本当に自分を理解してくれる人がいたら

その人の心は救われる
生きる勇気が湧いてくる
耐える力が強くなる

たった一人の理解者の存在は
それだけ相手にとって大きな存在

他人を理解できる 自分でありたい
他人の思いを感じることでできる 自分でありたい

それでは、次回の配信日まで
体調にお気をつけて
素敵な毎日をお過ごしくださいませ☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

☆「スターリィマンカレンダー2014」おかげ様で残り僅かです☆
<http://www.dream-hasegawa.com/about/2014calender.pdf>

★*...-----*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2013.12.09 vol.10

★*...-----*★

本メールマガジンは、スターリイマンのお話の創作者
はせがわ芳見とご縁のある大切な方々に心を込めて
毎回9の付く日にお届けさせていただいております☆
配信停止をご希望の方は、お手数ですが
yoshimi@dream-hasegwa.comまでご連絡ください。

☆ごあいさつ☆

皆様、お変わりございませんか？

早いもので、今年もあと三週間となりました。
皆様も色々とお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。

さて、本日は、武蔵一宮・氷川神社様に、
スターリイマンの作品「幸せの道」をご奉納して参りました。

さいたま市の大宮に鎮座する氷川神社様は、
娘のお宮参りから始まり、初詣の御祈祷など
いつも私たち三人を見守り支えてくださっている
とても大切な神社様です。
<http://musashiichinomiya-hikawa.or.jp/>

そんな氷川神社の神々様へ、
これまでの感謝の意と真心をこめて、
作品をご奉納させて頂いたことは、
誠に尊く身に余る光栄なことでした。

これも支えてくださっている皆様のおかげです。
心より感謝申し上げます。

これからも、ひたすら精一杯にスターリイマンの創作に
励んで参りたいと三人で心に誓いました。

尚、作品には、日本で一番長いとされている
氷川神社様の参道を歩くスターリイマンを描かせて頂きました。
先日、12月3日に新しく完成した御祈祷神札所の方に
飾って頂けることになっております。

是非お近くにお越しの際は、約2kmある参道をお歩き頂き、ご参拝頂けると嬉しいです。

それでは、「今を生きるスターリマンの物語」
第3話の大久保寛司氏も今回で最終章となります。

第3章「スターリマンへの感謝の風船レター」を
どうぞお楽しみくださいませ。

☆第3話 人が輝く生き方を伝える☆

人と経営研究所 所長 大久保 寛司 氏

～第3章 スターリマンへの感謝の風船レター～

『私にとってのスターリマン』

いまこうしてあるのは家族のお陰
いまこのようにして生きていけるのは家族のお陰

会社に勤めているとき とても厳しい環境に置かれた
それでも 辞めることなく 倒れることなく
続けることができたのは家族がいたから

どんなに仕事が厳しいときも 苦しいときも
心を支えてくれたのは 妻や子供達

疲れきって 苦しそうな表情で帰宅したときに
いつも笑顔で迎えてくれた妻
つぎつぎに抱きついてくる子供たち
どれだけ救われていたことだろう

7人の子供たちを育てる妻
いつも乳飲み子を抱え
いつも大きなおなかを抱えながら
料理をつくり 洗濯をし 家の中を整理し
そんな合間に 駅までの送迎を

迎えが夜中になることも
それでも嫌な顔をすることもなく迎えにきてくれた妻

送迎を当然のように思っていた私
どれほど大変なことであったか
私は全く理解していなかった
わかっていなかった

そのときの私は 何も見えていなかった

一人で苦勞していると
自分のことしか考えていなかった
妻の方がずっと大変だったにちがいないのに
いま気づいても 過去に戻って やり直すことは、、、

若いときは肉類 あぶらもの中心 濃い味ばかり
妻のつくる料理は 野菜が主役 そしてうす味

少しずつ 少しずつ 私も食べ物が変わっていった
嗜好が変わっていった

いまや 私まで野菜が主体に
妻のつくる料理が 今の私には最高に
身体によい食が摂れるようになったのも
今の体調も 全て妻のおかげ

日本の美しい四季の変化
これもまったく見えていなかった
感じるができなかった
新緑 紅葉 妻は一人で子供達を連れて自然の中に
全く興味がなく 家で横になっていた私

新緑や紅葉に 心が深く呼応する今の自分

妻の好きな 書道 絵画 陶器 染物、、、
芸術に全く感心を持てなかった20代 30代
今の私は それらを味わうのが心地よい時間に

いまこうしてあるのは 妻と子供達のおかげ

私にとってのスターリィマンは
妻と7人の子供たち

出会えたことがありがたい
生まれてきてくれたことがありがたい

感謝の思いで満たされる今

合掌

☆次回予告☆

第4話「今を生きるスターリマンの物語」
人とホスピタリティ研究所 所長 高野登氏 氏
第1章は、12月19日(木)配信予定です!

大久保寛司氏のスターリマンに宛てた、
感謝の風船レターはいかがでしたでしょうか?

素晴らしい大久保家のファミリーの皆様に出会えたことは、
私たち家族にとって、本当にかげがえのない財産です。

私の創作するスターリマンのお話は、
世界中が家族のような温かいきずなでつながるように、
夢を叶える9つの風船に願いを込めて届けておりますが、

お話のように、現実の社会の中で
大久保家の皆様のような素晴らしいご家族が、
日本中、世界中に、たくさんたくさんつながって頂くことで、
みんなの幸せに大きく貢献できるのだと強く強く思いました。

さて、次回は第4話に突入します。
第4話の「今を生きるスターリマンの物語」は
人とホスピタリティ研究所 所長 高野登氏です。

配信は、12月19日(木)の予定です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

今年のスターリマンの活動の締め括りとして、
現在、ISFネットライフ様の日本各地の事業所で
クリスマスイベントを開催させていただいています☆

先週の3日～7日までは、娘一人で、
新潟、札幌、佐賀、沖縄のへお伺いさせて頂きました。
それぞれの場所で心温まる時間を過ごさせて頂いたようで、
本当に感謝でいっぱいです。
<http://www.isfnet.co.jp/blog/?p=2580>

7日の沖縄では、沖縄タイムス社のセミナーで
たまたま沖縄にいらしゃった大久保寛司さんが
サプライズでご登場なさったそうです！

今後は三人で、渡邊社長や杉岡専務が扮する
サンタさん、トナカイさんと一緒に
まずは11日～13日に安城、大阪、沼津へ
15日～20日は盛岡、仙台、福島、いわき、東京2ヶ所で
夢を叶える9つの風船をお届けしてまいりたいと思います。

皆様も体調にお気をつけて、
残り少ない今年をお過ごしくださいませ。

それでは、今日も最後までどうもありがとうございました☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

☆「スターリマンカレンダー2014」完売御礼☆

<http://www.dream-hasegawa.com/about/2014calender.pdf>

発信元:ドリーム工房☆はせがわ はせがわ芳見(よしみ)
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX:048-671-7708 e-mail:yoshimi@dream-hasegawa.com
公式サイト <http://www.dream-hasegawa.com>
ブログ <http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>
